
受験の心得

ういん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

受験の心得

【コード】

N3073N

【作者名】

ういん

【あらすじ】

成績優秀な青山京平は某国立大学を受験する。

そして・・・

俺の名前は青山京平。

某有名私立校の3年生だ。

テストでは常に学年一位、スポーツもでき運動神経抜群。オマケに顔も良いとくれば、俺に惚れない女はいない。

唯一の欠点と言えば、多くの女を自分に見向きもしてくれないと嘆かせてしまっていることくらいだ。

そんな俺が目指しているのは、かの有名な某国立大学。

もちろん俺は今までの功績や模擬試験の結果などから落ちる気などさらさらないので、受ける学校もその一校だけだ。

まあ、全国模試の10位内に常に名前の挙がる俺だ。

これで落ちる訳がない。

そして、大学の入試当日。

俺は多分、いや、絶対にこの会場にいる誰よりもリラックスしていたことだろう。

試験開始の合図がなり、皆一斉に問題を解き始める。

全く、そんなに焦る必要は無いだろうに。

そういった焦りが予期せぬミスを招くのだよ。

おっ、俺今良いこと言った！

そんな事を考えつつ、俺も試験用紙をめくり問題を解き始める。

・・・思った通り、いや思った以上に、完璧に解けた。

これなら合格間違いなしだ。

あとは発表を待つのみ。
どうせ合格だろうけどな。
でも、あの問題・・・
もう少し捻りが欲しかったよなあ。

発表当日。

掲示板の前には、そわそわと自分の番号があることを願う物達が溢れている。

自分にはそんな心配がないだけ、その様子がより滑稽に見えた。

そしてついに、発表の時が来たようだ。

受験番号の書かれた大きな紙が掲示板に次々と張り出されていく。そこここで湧き上がる歓喜と落胆の声。

それを一通り眺めてから、では行くかと俺は前へと踏み出す。

えーと、俺の番号はと・・・

7743だから、あっちの方が。

んー、

6914

7234

7588

7740

7836

8014・・・

んっ？んん？なっ、ない！？

なっ、何でないんだ！？

自己採点でも得点は満点に近かった！

絶対に落ちるはずはないっ！

なのに何故ないっ！？

俺は人だかりを押しつけて事務へと向かう。

「おいつ、俺の番号が乗ってないぞ」

「はあ？君は何を言っているのだね？」

「だあかあらあ！俺の番号がのってないんだよ！7743！何で無いんだよ！」

「無いのならそりゃ君、テストの点が足りなかったんだよ。ちゃんと認めなさい。」

「そんなはずはない！だって俺は！」

「一体何の騒ぎだね？」

そこに現れたのは、この大学の名誉教授である佐々木拓郎。これは絶対に誰かの陰謀だ、そうに違いない。名誉教授である彼ならその事を何か知っているかもしれない。

「俺は今回のこの試験で自己採点をした結果満点に近かった。そんな俺の番号が乗ってないとはどういうことですかっ!？」

「ほほう、ちなみに君は何点取っていたのかね？」

「全教科300点満点中286点ですよっ！」

「ふむ、それは今回の最高得点者よりも上の得点だねえ」

「ならっ！」

「ん〜、そういえば誰かが言ってたなあ。凄い得点とった人がいるのに、受験番号も名前も書いてなくて、惜しいことした子がいたって」

「……えっ？」

彼は今、なんと言った？

名前を……書いていない？

そういえば、俺はしつかり名前を書いたか？

俺は、俺は……

周りで焦っている奴らを見ながら余裕を持って、それで……

確かに……名前を書かずに……

名前を書かずに問題を解き始めて、そしてそのまま提出してしまっ
た！

それも全教科……

「まっ、そういうことだね。近頃の子はこうゆう時、『どんまい』
って言うんだっけねえ。君、若いんだからまだまだチャンスはある
よ。勉強もできるみたいだし。どんまいだよ」

はっ、はは．．．

こんなじいさんに慰められちゃった。

俺は完璧なはずだったのに。

これじゃ浪人じゃねえか．．．

俺の素晴らしい人生の計画が、ガラガラと崩れていく。

そんな音が、聞こえた気がした。

「ほっほっほっ。受験生の皆さん、テストを受けるときには必ず名
前を書いてから始めて、終わりにもちゃんと名前を確認するのだぞ。
でなければ、彼のようになってしまふからのう。はっはっはあ！」

(後書き)

全国の受験生の皆さん、くれぐれも彼のようなミスをしないでくださいね！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3073n/>

受験の心得

2010年10月17日07時10分発行